

研究・調査報告書

報告書番号	担当
168	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)	
<p>Different drinking patterns for women and men with alcohol dependence with and without alcoholic cirrhosis.</p> <p>アルコール性肝硬変を有する、およびアルコール性肝硬変を有さないアルコール依存の男女における飲酒パターンの違い</p>	
執筆者	
Stokkeland K, Hilm G, Spak F, Franck J, Hulcrantz R.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Alcohol Alcohol. 2008 Jan-Feb;43(1):39-45.	
キーワード	
アルコール依存症、アルコール性肝硬変、binge drinking、性差	
要 旨	
<p>目的： アルコール依存 (alcohol dependence AD) 患者において肝硬変を有するか否かにより飲酒パターンが異なるかを検討する。</p> <p>方法： 飲酒パターンの異なる3グループからの情報を検討した。アルコール性肝硬変(AC)を有する50例、アルコール依存(AD)の40例、非アルコール性肝硬変(NAC)の40例である。アルコール摂取量を推計するため、構造化面接生涯飲酒歴(Lifetime Drinking History LDH)を用いた。生涯総アルコール摂取(lifetime alcohol intake; LAI)、飲酒日数(drinking Days; DD)、飲酒日一日あたりのドリンク数(drinks per drinking day; DDD)[訳注:1ドリンクは、ビールで300~360mL、アルコール換算12~18g]、アルコールの種類、短時間大量飲酒(binge)量に関する情報を面接にて収集した。</p> <p>結果： 女性は男性より飲酒が少なかった。ACの女性は9,198ドリンクがbinge(短時間大量飲酒)であったと報告したのに対し、肝硬変を有さないADの女性は25,890がbingeであった ($p < 0.05$)。ACの女性は、生涯総アルコール摂取が14,009ドリンクであると報告したのに対して、ACの男性は45,658ドリンクであった ($p < 0.0001$)。ADの女性は5.8DDDであったのに対し男性は8.5DDDであった ($p < 0.05$)。男女とも、ACの者は肝硬変を有さないAD者に比べて有意に少ないDDDであった。つまりAC女性で4.4ドリンク ($p = 0.046$)、AC男性で6.2ドリンク ($p = 0.048$)であった。</p> <p>結論： アルコール性肝硬変(AC)患者は、アルコールの肝毒性作用の影響を受けやすく、ACの女性はさらに感受性が強いようである。継続的なアルコール摂取ではなく、短時間大量飲酒(binge drinking)は、肝硬変の発症に特に関連しているとは思えなかった。Bingeにおいて女性のほうがより少ないアルコールを摂取していた事実がこのことをさらに強調している。</p>	